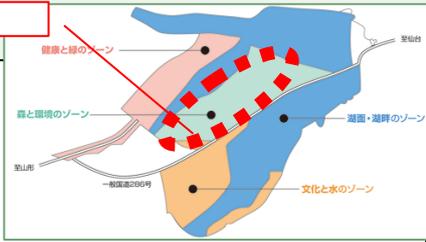


# みちのく森の楽校(たより) 第8回

## みちのく公園「里山地区」とは？

里山地区



公園区域の中央の釜房湖に突き出した半島で、雑木林とスギ・ヒノキの植林地におかれた里山です。豊かで特徴的な自然環境が多く残されていることから、これらの保全・活用と適切な利用に留意しながら平成26年度春の開園を目指しています。

これまで、ツリーハウスづくり、樹林地管理や観察会など、さまざまな試行活動を行ってきました。今年度は、10回シリーズの親子会員活動を行っています。



## 1月25日(土) 晴れ 炭焼き体験・隠れ家づくり

今回は、先週に続いての会員活動です。なぜ、2週連続にしたかということ、炭焼きを体験して欲しかったから。炭焼きは1月17日(金)に準備作業として窯焚きをして窯を温め、18日(土)から炭焼きを開始しました。炭材を立て込み、前焼きをして、十分温度があがったら、蓋を締め、1昼夜。翌朝、炭出しをします。そんな風にして1週間、炭焼き名人が毎日、炭焼きをしてきました。そして今日は最終日、炭出しを会員みんなで見つめました。すごい迫力です！炭焼き窯の熱を活用して、パン焼きをしました。

午後は、引き続きの隠れ家づくりをしました。これは、まだまだ続きます。

## 炭焼き！

里山地区の初めての炭焼きは、今日で終わります。1月18日から25日までの8日間、朝早くから、炭焼き名人の鈴木正一さんと伊藤聖悦さん、それにボランティア有志が集まり、毎日、毎日、焼き続けたのです。そして最終日、窯出しを会員みんなで見守りました。



煙の色や匂いなどで、炭が焼けたかを判断します。窯を塞いでいた蓋を少しずつ開けて、中に空気を入れると、炭が熾きた状態になり、温度がどんどんあがって炭が焼きしまっていくのです。これを「精錬」といいます。窯の近くまで寄ってみると、熱いことがよくわかりました。



いよいよ窯出しです。手前の方からゆっくりを出していきます。窯口には水を打っておき、熱い炭に「すばい(炭灰)」という消し炭をかけて火を消します。真冬でも大汗をかくきつい作業です。炭の温度が下がったら、袋に詰めて完成です。炭を全部出したら、里山地区で初めての炭焼きが終わります。

## 炭焼き窯でパンを焼きました。

1週間の炭焼きで、炭焼き窯はとも熱を持っています。炭焼き名人によれば、中は1200度もあるそうです。この熱を使って、パンを焼きました。

自然共生園で収穫した小麦粉を使った無発酵のパンです。



まだまだ熱い窯の中に平たい石を置いて、その熱で焼きます。

## 井戸掘り

井戸掘りは、毎回、地道に進めています。子供達、みんなが力を合わせて、よいしょ！



## 隠れ家づくり

隠れ家づくりは9月から始めました。3班に分かれて、思い思いのユニークな隠れ家を作っています。

ボランティア活動では「あかまつだいら」を広場にするために、アズマネザサを刈りはらっているのですが、そのササを屋根材に使おうということになり、取りに行きました。アズマネザサは背が高く、しっかりしています。根元で束ねると、よい屋根材になりました。

「森の楽校」では、こんなふうに、里山にある身近な材料を使って、ものづくりの活動をしています。



### 1班の隠れ家

この班の隠れ家の場所は、アメリカインディアンのテント、ティピー型。背の高い隠れ家です。

出入り口には麻布をたらし、屋根はスギ皮とササで葺いています。椅子・テーブルも作りました。



### 2班の隠れ家

この班の隠れ家は、2つの切り株を活用して、床板を張って、デッキを作りました。屋根の骨組みはスギの枝を使って作りました。丸い可愛いテント型。屋根にはササを束ねて葺いていきます。



### 3班の隠れ家

この班の隠れ家は、スギの丸太を束に立てて、しっかりしたデッキを作りました。デッキには階段も付けました。

屋根の骨組みはスギの枝、屋根には麻布を使っています。

